



南高SSHだより

第4号
H26.9.18
新潟南高等学校
SSH部発行

「トキ野生復帰プロジェクト」研修

期日：平成26年8月7日(木)～8月9日(土)

場所：佐渡市新穂潟上トキ交流会館、佐渡市新穂キセン城（ピオトープ）、トキの森公園など

講師：本間 航介 先生（新潟大学農学部准教授）

1日目

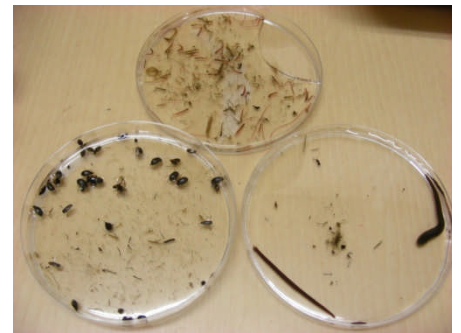
佐渡汽船では、カモメと戯れ、お昼に佐渡に到着。

トキ交流会館に移動し、本間先生から「佐渡と新潟大学」「放鳥トキ情報」「トキの行動」等の講義をしていただきました。トキは繁殖期になると、メラニン（黒い色素）が首のつけ根からでて自分の首に塗りつけることや、水辺の生物を食べるのに水が嫌い等々の興味深い話に生徒はメモをとりながら聞き入っていました。特に、次の4つの誤解に答えられるのは、研修に参加した生徒の特権だと思います。皆さんは答えられますか？

《トキの4つの誤解》

- (1) トキは環境が悪くなったから絶滅したのか？
- (2) トキ (*Nipponia nippon*) は日本固有種で、中国のトキは別か？
- (3) トキのエサはドジョウか？
- (4) トキ野生復帰は国策で万全の準備ができているか？

その後、隣の水田で生物の採集をしました。今年は天候が悪く、水田の江はアオコが発生し、汚濁していました。夕食後、同定作業を行いました。例年より生物量が少なく、ドジョウが多かったようです。また、水田ですくってきた水の水質検査も行いました。



ミズスマシやヒル



水田の江（今年は水が少ない）



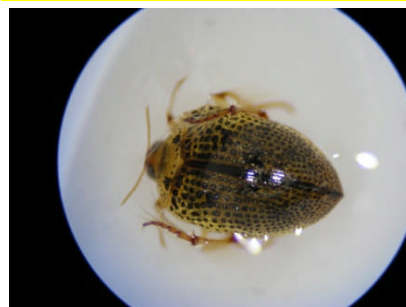
同定作業（図鑑で種を調べる）



機械で水質検査



泥の中の生物を探ります



クロズマメゲンゴロウと同定



水質パックテスト

2日目

キセン城というトキのためのビオトープに行きました。現地での講義のあと、ビオトープ内の水と生物の採集をしました。

キセン城は薪炭林として利用されていましたが、昭和40年代にガス・電気が普及し、利用されなくなるとすぐに森林化して、トキが住めなくなったそうです。細くなった木は、枝が横に広がらず大型の鳥がとまれなくなります。適度にかく乱があった方が多様性は高くなるという話を聞き、現在のビオトープ管理の大変さを知りました。

交流会館に戻り、昼食後、里山やトキの天敵などについて本間先生の講義がありました。その後、水質検査と同定作業を行いました。



キセン城での生物調査



ミズカマキリ

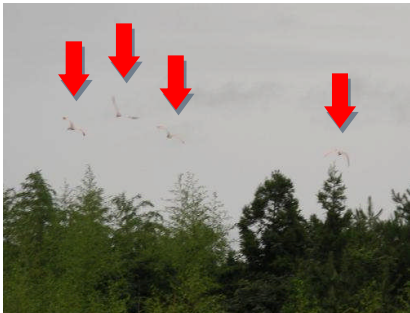


アカハライモリの幼生



森林の講義

夕方、野生のトキの観察に出かけました。田んぼで4羽のトキを発見。飛んでいってしまいましたが、田んぼに足跡や羽毛を見つけました。拾った羽は本人だけのもので、譲り渡してはいけません。拾った生徒はラッキーでしたね！その後、木の上に止まっている2羽のトキもゆっくり双眼鏡等で観察することができました。夕食後、同定作業再開。その際、新潟日報の取材も受けました。



飛び立つ4羽のトキ



フィールドスコープで観察



スコープから覗いたトキ

3日目

トキの森公園で展示物の見学（トッキッキに会う）、ケージにいるトキを観察しました。

この3日間、非常に貴重な体験ができました。



「野生のトキ」
「飼育のトキ」
「トッキッキ」
に会えました！